

まちづくりに関するアンケート調査結果報告書

令和8年3月
紀北町

目次

1. 調査の概要	1
(1) 調査目的	1
(2) 調査概要及び回収率等	1
(3) 本概要版の留意点	1
2. 回答者の属性	2
(1) 住民アンケート調査	2
(2) 小中学生アンケート調査	2
3. 住民アンケート調査結果について	3
(1) 町の住みやすさについて	3
(2) 定住意向について	4
(3) 町の満足度と重要度	5
(4) 今後のまちづくりの特色について	9
(5) 定住対策について	10
4. 小中学生アンケート調査結果について	11
(1) 町について	11
(2) 今後のまちづくりについて	12

1. 調査の概要

(1) 調査目的

本調査は、紀北町第3次総合計画及び第3期紀北町総合戦略の策定に向け、今後の定住意向をはじめ、各分野の満足度・重要度、今後のまちづくりの方向、分野ごとの施策で期待することなど、住民の意識構造の実態把握を目的に実施しました。本概要版は主要な設問結果を抜粋した資料となります。

(2) 調査概要及び回収率等

	住民アンケート調査	小中学生アンケート調査
調査対象	16歳以上の町民	町内小中学校に在籍する 小学6年生・中学3年生
抽出法	層化抽出（住民基本台帳より抽出）	全数調査
調査方法	郵送法（Web回答併用）	Web回答
調査時期	令和7年11月～12月	令和7年10月～11月
配布数	2,500	-
有効回収数	866	168
有効回収率	34.6%	-

(3) 本概要版の留意点

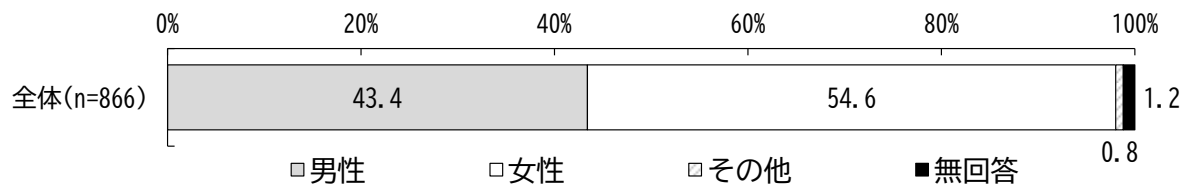
本概要版を理解する上で、次の点に留意する必要があります。

- 比率は百分率（%）で表し、小数点以下2位を四捨五入して算出しています。したがって、合計が100%を上下する場合があります。
- 基数となるべき実数は、“n=〇〇”として掲載し、各比率は回答数を100%として算出しています。
- 質問の終わりに【複数回答】とある問は、1人の回答者が複数の回答を出してもよい問のため、各回答の合計比率は100%を超える場合があります。
- グラフ中の選択肢の文言は一部簡略化しています。
- 問の中には「～に○をつけた方がいます。」などいろいろな制限があり、また、回答者数が少なく、有意性の低いものも含まれます。
- アンケート調査における「前回調査」とは令和2年に実施した同種のアンケート調査結果となります（前回調査は16歳以上の町民と中学3年生を対象に実施）。
- 前回調査では、年齢による回答率の差から回答者の年齢の偏りが顕著であったことから、今回調査では年齢による回答率の差を考慮して、サンプル数を年齢別に割り当てた上で、サンプルを無作為に抽出しています。

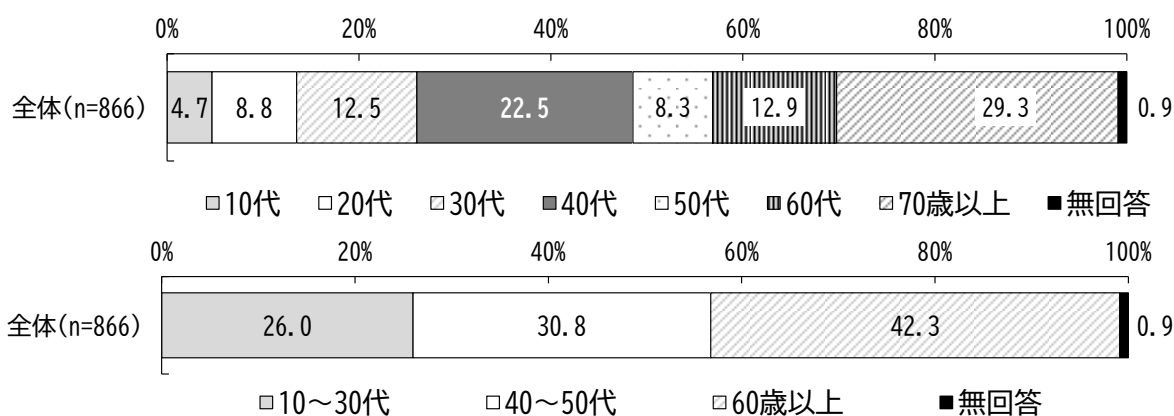
2. 回答者の属性

(1) 住民アンケート調査

①性別

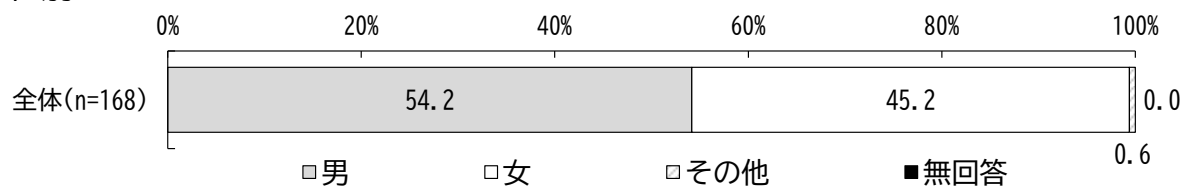


②年齢

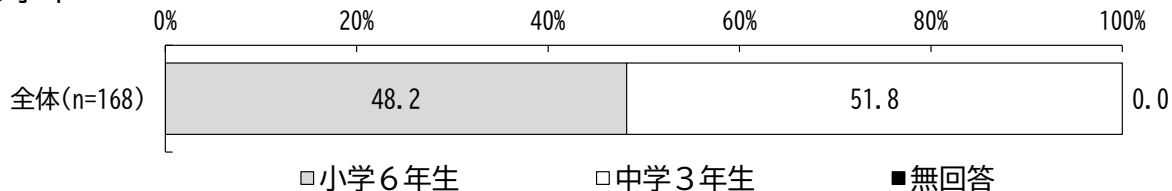


(2) 小中学生アンケート調査

①性別



②学年

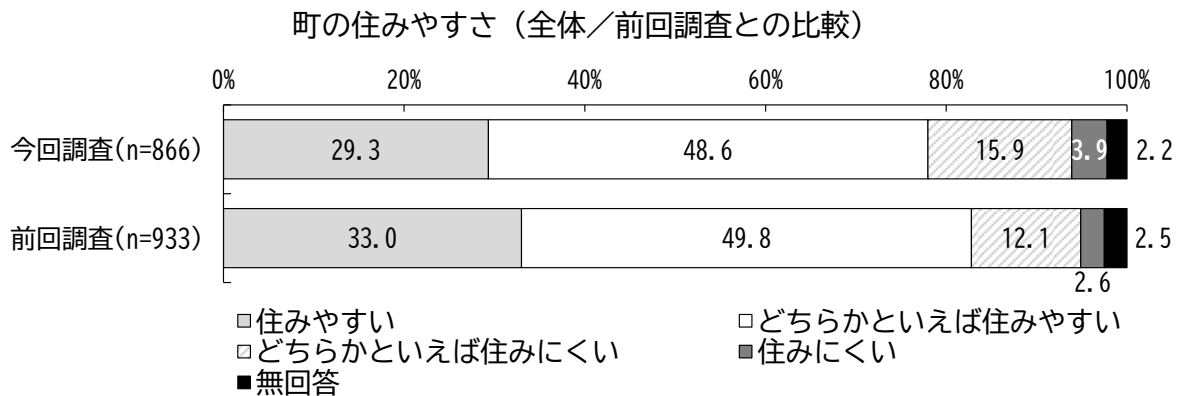


3. 住民アンケート調査結果について

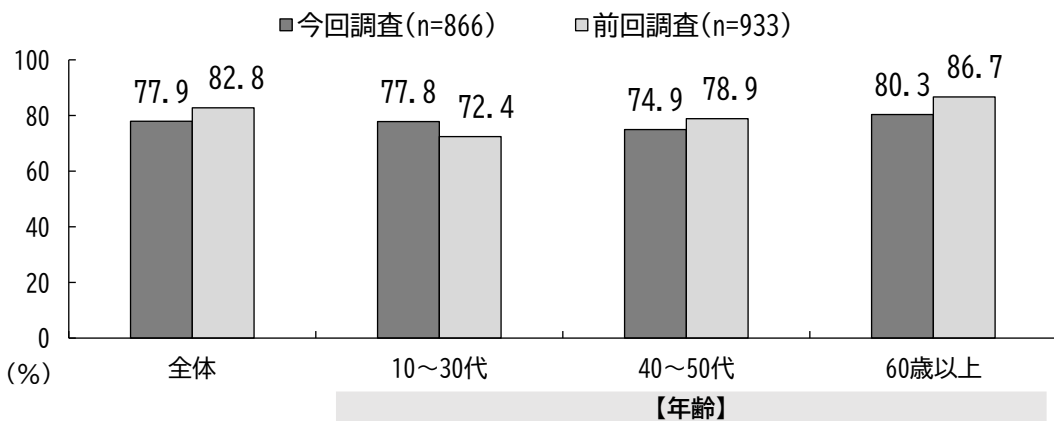
(1) 町の住みやすさについて

町の住みやすさについては、『住みやすい』が77.9%と8割弱となっており、『住みにくい』は19.8%にとどまります。前回調査の82.8%から全体で5ポイント減少し、年齢別の40代～50代、60歳以上で減少していますが、10～30代では増加しています。

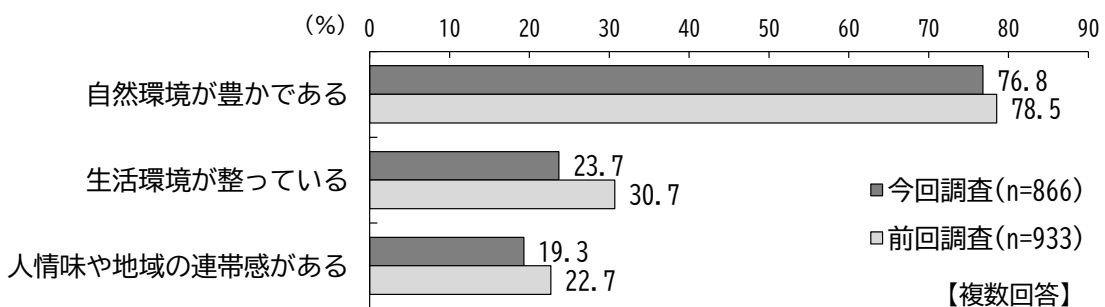
町の魅力については、「自然環境が豊かである」が最も多く、次いで「生活環境が整っている」、「人情味や地域の連帯感がある」が上位に挙げられ、こうした点が町の特性として認識されていることがうかがえます。



町の住みやすさ（全体、年齢／『住みやすい』の回答割合／前回調査との比較）



町の魅力について（全体／上位回答／前回調査との比較）

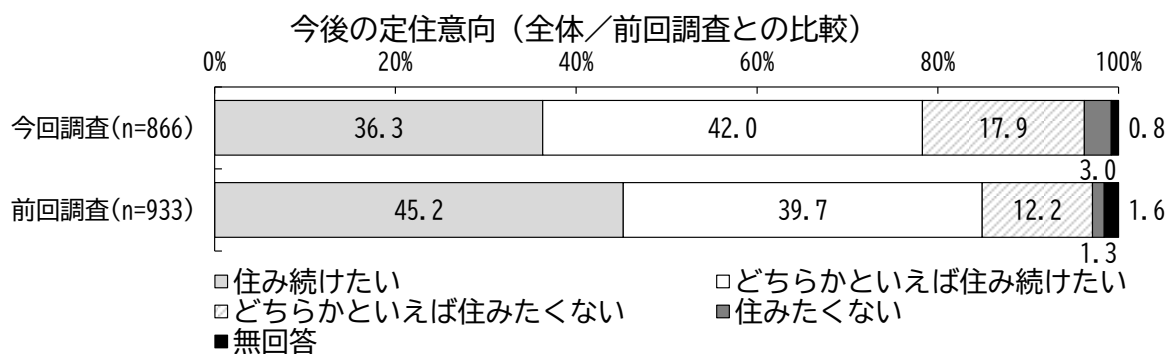


(2) 定住意向について

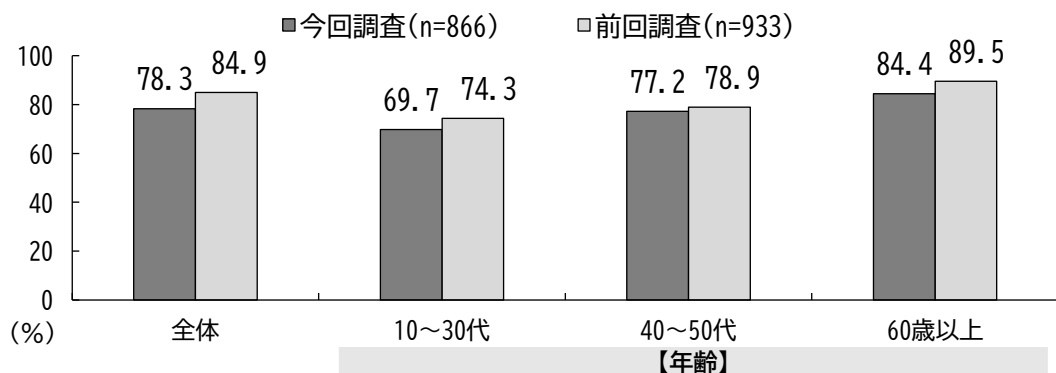
今後の定住意向については、『住み続けたい』が78.3%と約8割となっている一方、『住みたくない』は20.9%にとどまります。前回調査(84.9%)から全体で約7ポイント減少し、年齢別でもすべての層で減少しています。

年齢別の10~30代では『住み続けた』が69.7%と前回調査(74.3%)から減少し、『住みたくない』が30.2%と約3割となっています。こうした比較的若い層の定住意向を上げていくことが、今後の定住・移住対策で重要になります。

住みたくない理由については、「道路・交通の便が悪い」及び「買い物の便が悪い」が第1位に挙げられ、次いで「働く場が不十分」が続きますが、年齢別の10~30代では「働く場が不十分」が第1位の回答となっており、若い層の定住対策として雇用の場が大きな課題となっていることがうかがえます。

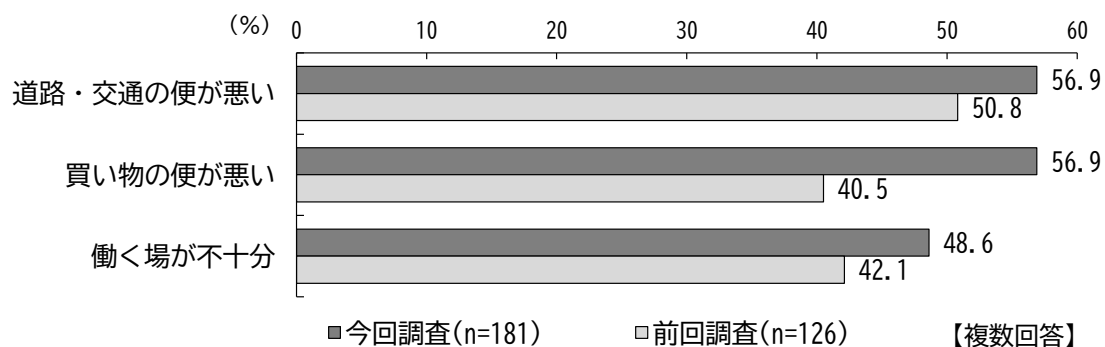


今後の定住意向 (全体、年齢/『住み続けたい』の回答割合/前回調査との比較)



住みたくない理由について

(全体/上位回答/前回調査との比較、『住みたくない』と回答した人のみ)



(3) 町の満足度と重要度

町の現状についての満足度と重要度について、「1 生活基盤分野」、「2 保健・医療・福祉分野」、「3 産業分野」、「4 教育・文化・スポーツ分野」、「5 住民参画・行財政分野」の5分野 28項目について、5段階で評価した結果を点数化しました（※評価点の算出方法参照）。

満足度が最も高い項目は「1-⑫自然環境の豊かさ」となっており、次いで「1-④ごみ処理の状況」、「1-⑤上水道の整備状況」、「1-③騒音・振動等の状況」、「5-⑤広報や情報提供体制の状況」が続きます。

満足度が最も低い項目は「1-⑩公共交通の便利さ」となっており、次いで「3-②働きがいのある職場」、「1-①自然災害からの安全性」、「3-①日常の買い物の便利さ」、「1-⑧公園・緑地等の整備状況」が続きます。

重要度が最も高い項目は「1-①自然災害からの安全性」となっており、次いで「2-①保健・医療の状況」、「3-①日常の買い物の便利さ」、「1-④ごみの収集処理の状況」、「1-⑫自然環境の豊かさ」が続きます。

また、重要度を前回調査と比較しても、前回調査で重要度の最も高い「1-①自然災害からの安全性」が今回調査でも重要度が最も高く、防災対策が引き続き重点施策であることがうかがえます。

満足度（全体／評価点、上位5位、下位5位）

順位	上位項目	評価点	順位	下位項目	評価点
1	1-⑫自然環境の豊かさ	4.25	1	1-⑩公共交通の便利さ	2.31
2	1-④ごみの収集処理の状況	4.04	2	3-②働きがいのある職場	2.68
3	1-⑤上水道の整備状況	4.02	3	1-①自然災害からの安全性	2.71
4	1-③騒音・振動等の状況	3.77	4	3-①日常の買い物の便利さ	2.75
5	5-⑤広報や情報提供体制の状況	3.56	5	1-⑧公園・緑地等の整備状況	2.91

※各項目の先頭にある番号（「1-〇」）は1が生活基盤分野、2が保健・医療・福祉分野、3が産業分野、4が教育・文化・スポーツ分野、5が住民参画・行財政分野を表します。

重要度（全体／評価点、上位10位）

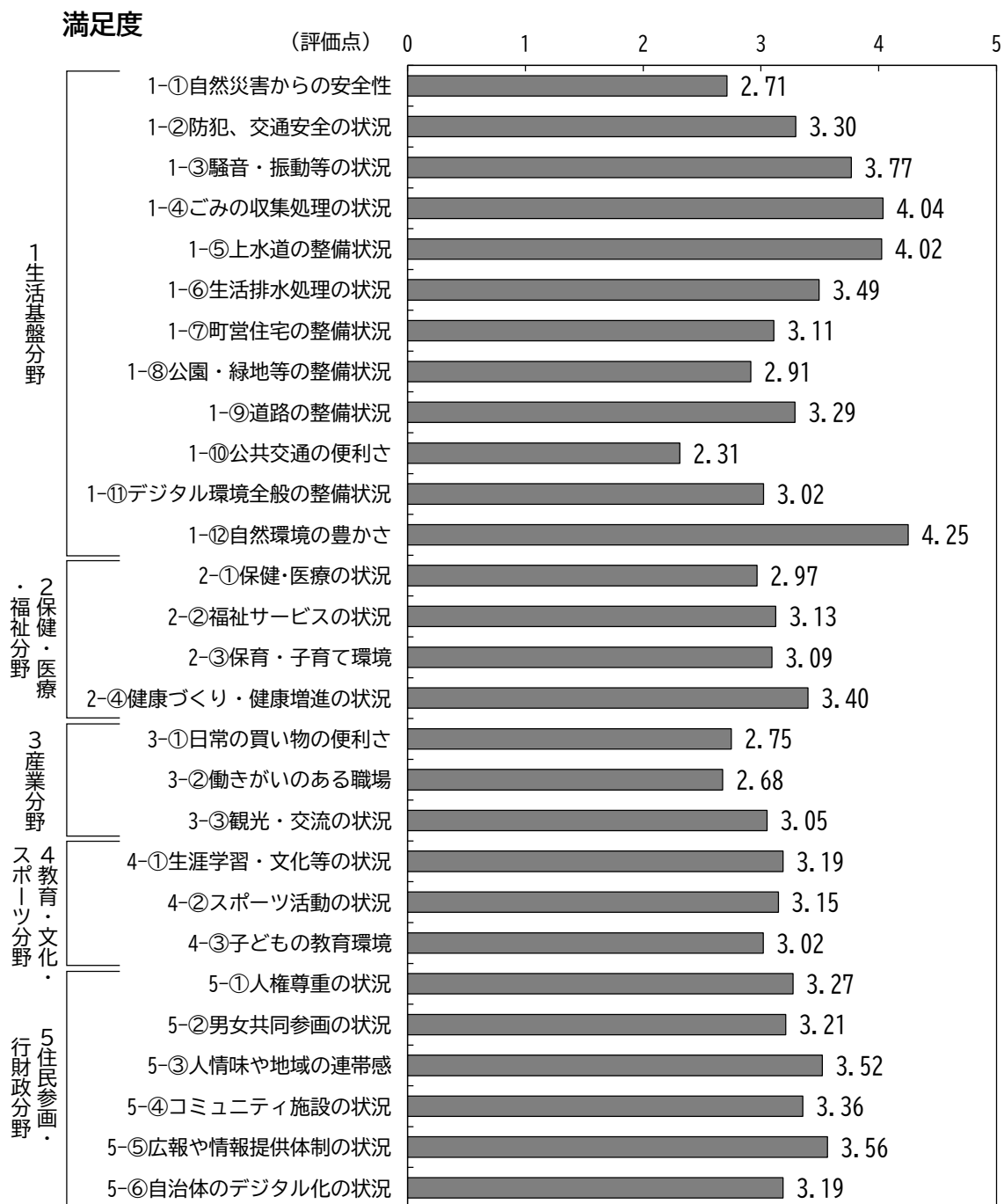
順位	項目	評価点	順位	項目	評価点
1	1-①自然災害からの安全性	4.31	6	1-②防犯、交通安全の状況	3.97
2	2-①保健・医療の状況	4.20	7	1-⑤上水道の整備状況	3.94
3	3-①日常の買い物の便利さ	4.15		3-②働きがいのある職場	
4	1-④ごみの収集処理の状況	4.03	9	2-②福祉サービスの状況	3.93
5	1-⑫自然環境の豊かさ	3.99	10	1-⑩公共交通の便利さ	3.86

※評価点の算出方法（満足度の場合、重要度も同様）

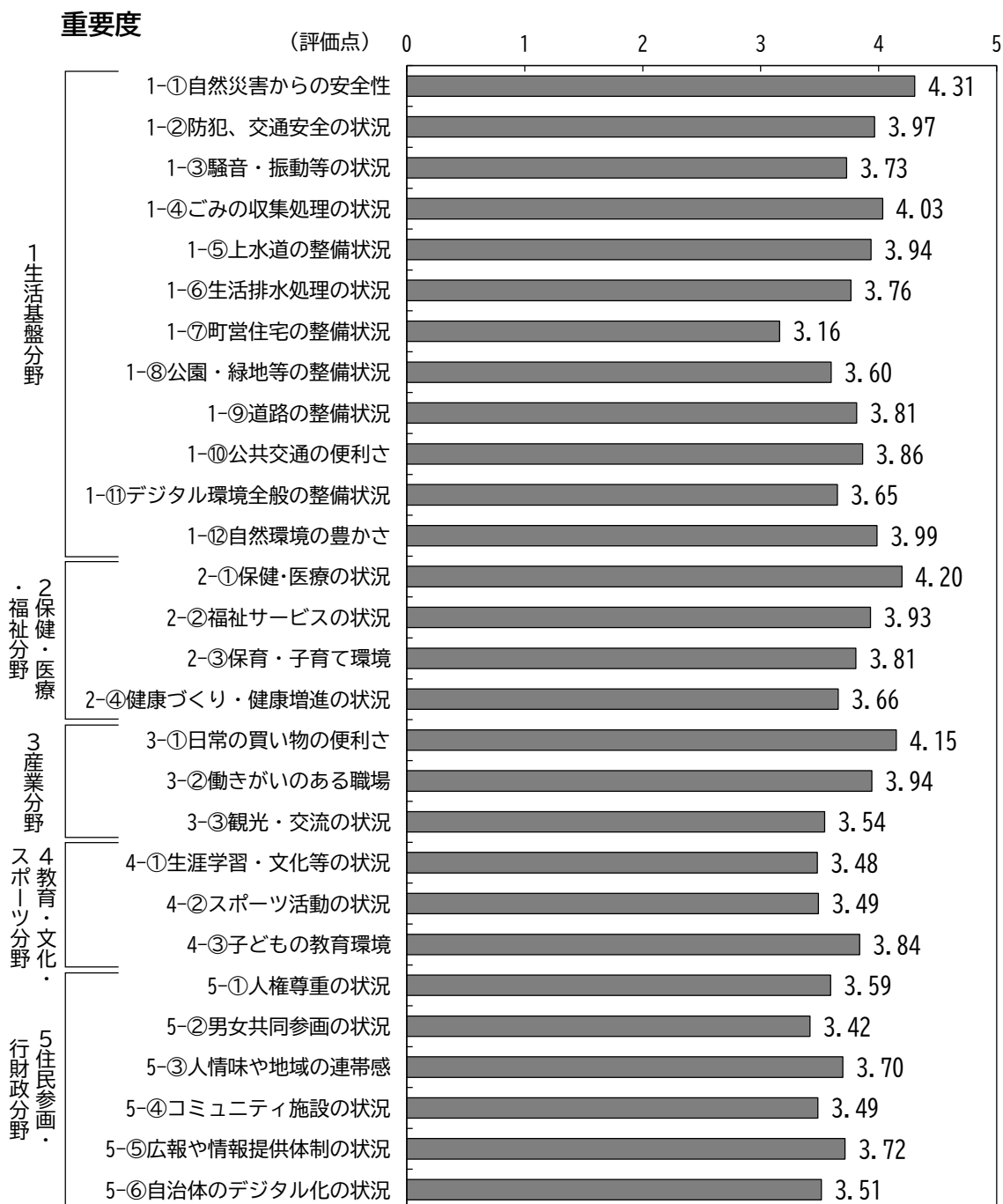
5段階の評価にそれぞれ点数を与え、評価点を算出する。

$$\text{評価点} = \frac{\left[\begin{array}{l} \text{「満足している」の回答者数} \times 5 \text{点} + \text{「どちらかといえ} \\ \text{ば満足している」の回答者数} \times 4 \text{点} + \text{「どちらともいえ} \\ \text{ない」の回答者数} \times 3 \text{点} + \text{「どちらかといえ} \\ \text{ば不満である」の回答者数} \times 2 \text{点} + \text{「不満である」の回答者数} \times 1 \text{点} \end{array} \right]}{\left[\begin{array}{l} \text{「満足している」、「どちらかといえ} \\ \text{ば満足している」、「どちらともいえ} \\ \text{ない」、「どちらかといえ} \\ \text{ば不満である」、「不満である」の回答者数} \end{array} \right]}$$

満足度（全体／評価点）

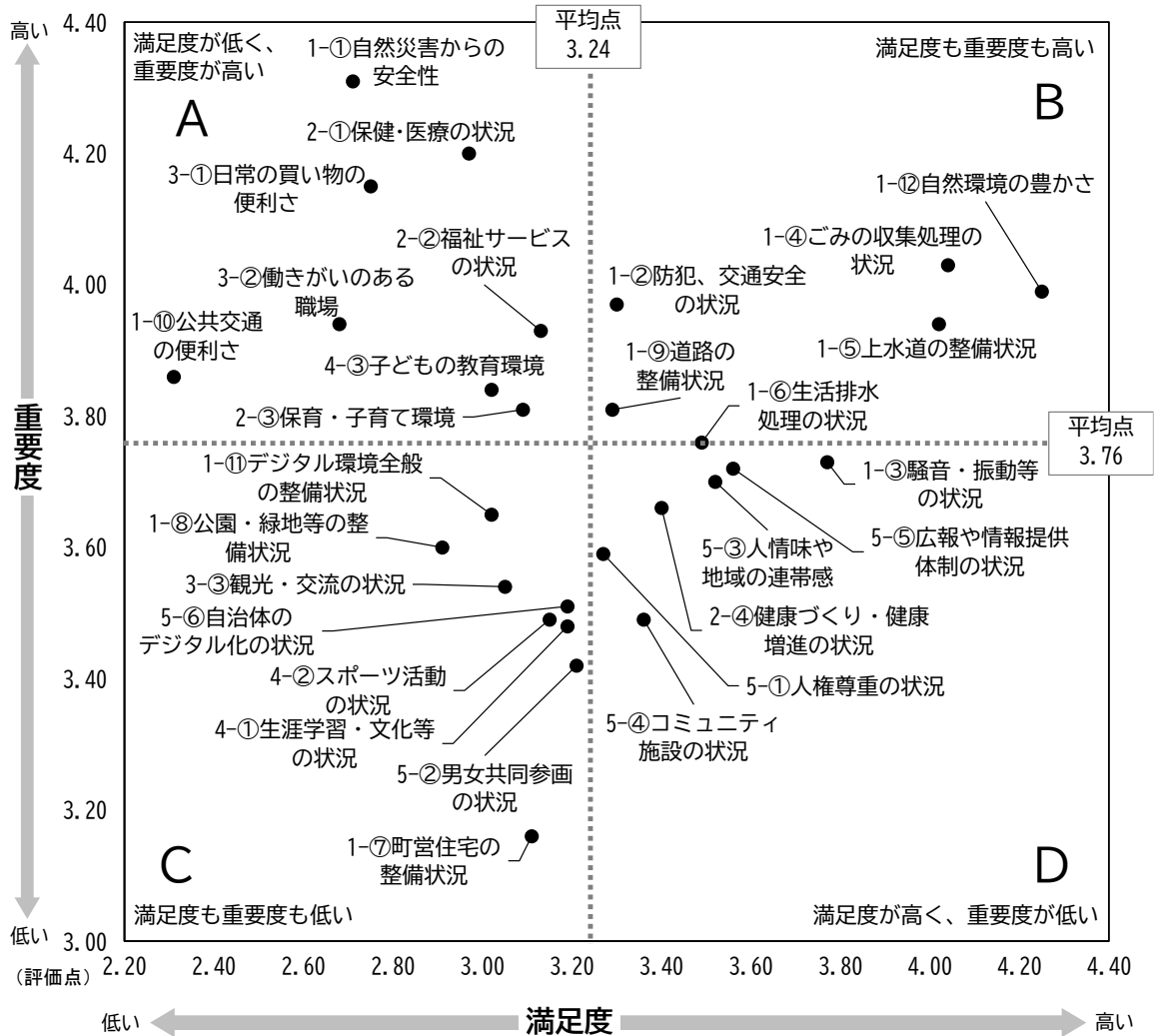


重要度（全体／評価点）



満足度が低く、重要度が高く優先的な対応が必要な項目として、重要度の高い順から「1-①自然災害からの安全性」、「2-①保健・医療の状況」、「3-①日常の買い物の便利さ」、「3-②働きがいのある職場」、「2-②福祉サービスの状況」、「1-⑩公共交通の便利さ」、「4-③子どもの教育環境」、「2-③保育・子育て環境」となっており、主に防災、保健・医療・福祉、子育て・教育、生活利便性の向上、働く場の確保などが優先して取り組む必要がある項目といえます。

満足度・重要度の散布図

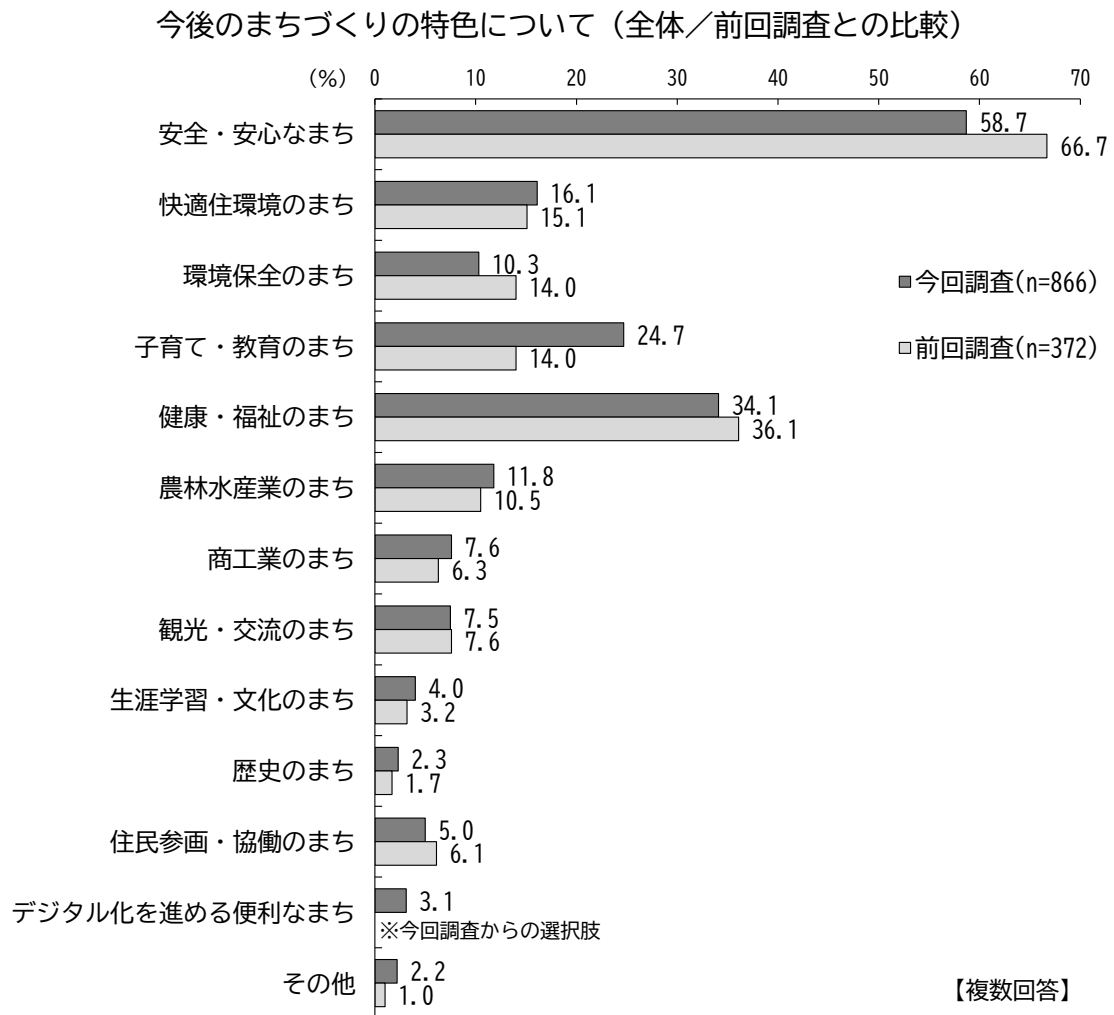


領域	A	B	C	D
項目	1-①自然災害からの安全性 2-①保健・医療の状況 3-①日常の買い物の便利さ 3-②働きがいのある職場 2-②福祉サービスの状況 1-⑩公共交通の便利さ 4-③子どもの教育環境 2-③保育・子育て環境	1-④ごみの収集処理の状況 1-⑫自然環境の豊かさ 1-②防犯、交通安全の状況 1-⑤上水道の整備状況 1-⑨道路の整備状況 1-⑥生活排水処理の状況	1-⑪デジタル環境全般の整備状況 1-⑧公園・緑地等の整備状況 3-③観光・交流の状況 5-⑥自治体のデジタル化の状況 4-②スポーツ活動の状況 4-①生涯学習・文化等の状況 5-②男女共同参画の状況 1-⑦町営住宅の整備状況	1-③騒音・振動等の状況 5-⑤広報や情報提供体制の状況 5-③人情味や地域の連帯感 2-④健康づくり・健康増進の状況 5-①人権尊重の状況 5-④コミュニティ施設の状況

※重要度が高い順

(4) 今後のまちづくりの特色について

今後のまちづくりの特色については、「安全・安心なまち」が前回調査と同様に第1位に挙げられ、次いで「健康・福祉のまち」が続き、防災、健康・福祉を軸としたまちづくりへの関心が強い結果となっています。また、年齢別の10～30代、40～50代では、「子育て・教育のまち」と回答する割合が多く、子育て世代では子育て支援や教育に対する要望が強い結果となっています。



今後のまちづくりの特色について（全体、年齢／複数回答、上位3位、単位：％）

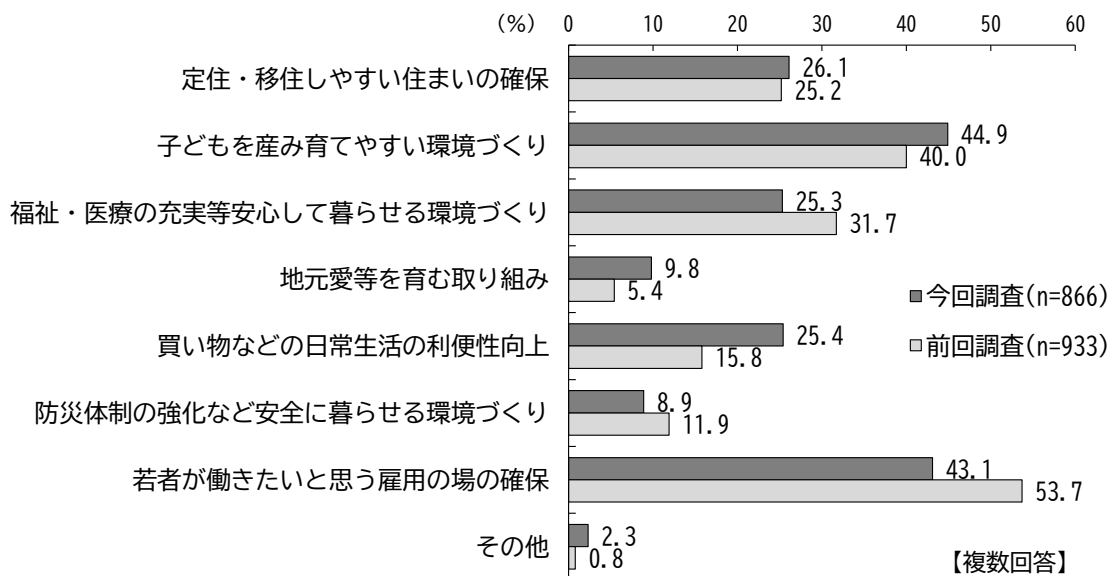
		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		安全・安心なまち 58.7	健康・福祉のまち 34.1	子育て・教育のまち 24.7
年齢	10～30代(n=225)	安全・安心なまち 53.8	子育て・教育のまち 32.9	快適住環境のまち 19.6
	40～50代(n=267)	安全・安心なまち 55.1	子育て・教育のまち 35.2	健康・福祉のまち 25.5
	60歳以上(n=366)	安全・安心なまち 64.8	健康・福祉のまち 49.7	農林水産業のまち 14.5

(5) 定住対策について

定住対策については、「子どもを産み育てやすい環境づくり」(44.9%)が最も多く、次いで「若者が働きたいと思う雇用の場の確保」(43.1%)が続きます。前回調査より「子どもを産み育てやすい環境づくり」と回答する割合が増加しています。

年齢で見ると、10～30代で「子どもを産み育てやすい環境づくり」と回答する割合が53.3%と比較的多くなっています。

定住対策について（全体／前回調査との比較）



定住対策について（全体、年齢／複数回答、上位3位、単位：％）

		第1位	第2位	第3位
全体(n=866)		子どもを産み育てやすい環境づくり 44.9	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 43.1	定住・移住しやすい住まいの確保 26.1
年齢	10～30代(n=225)	子どもを産み育てやすい環境づくり 53.3	定住・移住しやすい住まいの確保 32.4	買い物などの日常生活の利便性向上／若者が働きたいと思う雇用の場の確保 29.8
	40～50代(n=267)	子どもを産み育てやすい環境づくり 47.9	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 43.4	買い物などの日常生活の利便性向上 27.0
	60歳以上(n=366)	若者が働きたいと思う雇用の場の確保 51.1	子どもを産み育てやすい環境づくり 38.0	福祉・医療の充実等安心して暮らせる環境づくり 30.9

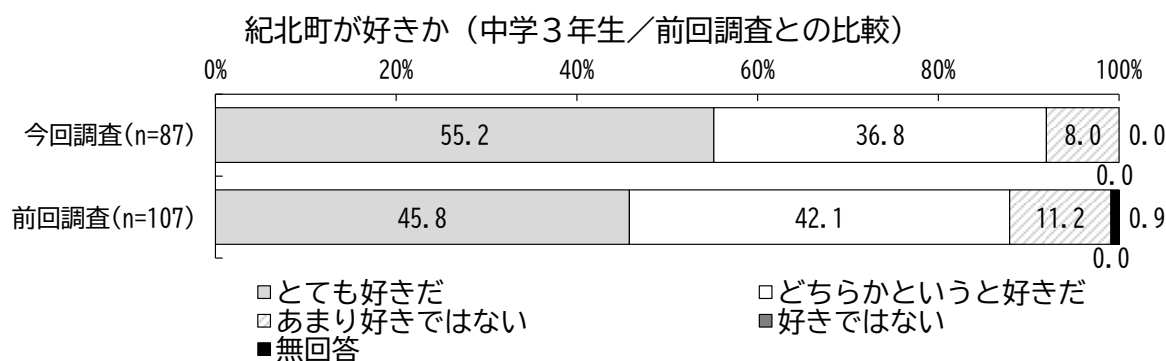
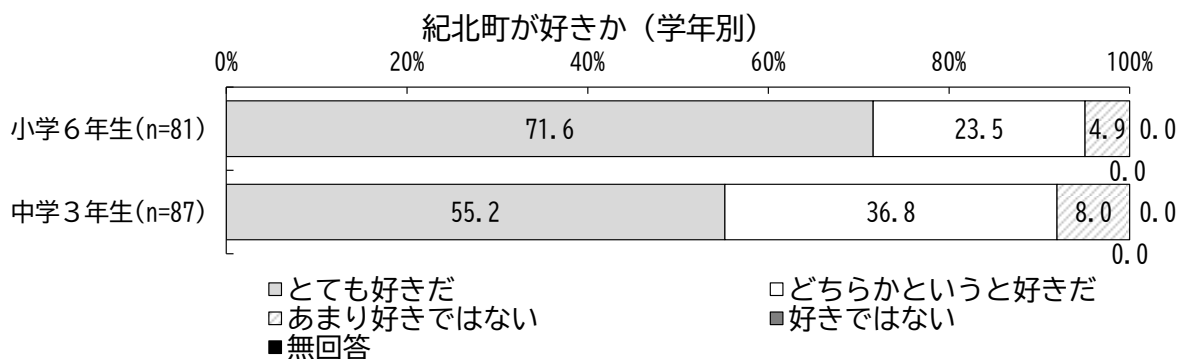
4. 小中学生アンケート調査結果について

(1) 町について

町が好きかどうかについては、小学6年生で95.1%、中学3年生で92.0%が『好き』と回答し、中学3年生では『好き』と回答する割合が前回調査の87.9%から今回調査の92.0%へ約4ポイント増加しています。

好きなところについては、「自然が豊かだ」が他を大きく引き離して第1位に挙げられ、次いで「人がやさしい」が続きます。

一方、好きではない理由としては、「遊べる場所が少ない」、「買い物がかたい」が上位に挙げられています。



町の好きなおところ（学年別／複数回答、上位3位、単位：％）

	第1位	第2位	第3位
小学6年生(n=77)	自然が豊かだ 80.5	人がやさしい 62.3	まちがきれいだ 24.7
中学3年生(n=80)	自然が豊かだ 92.5	人がやさしい 42.5	災害や犯罪が少ない ほか 22.5

好きではない理由（学年別／複数回答、上位3位、単位：％）

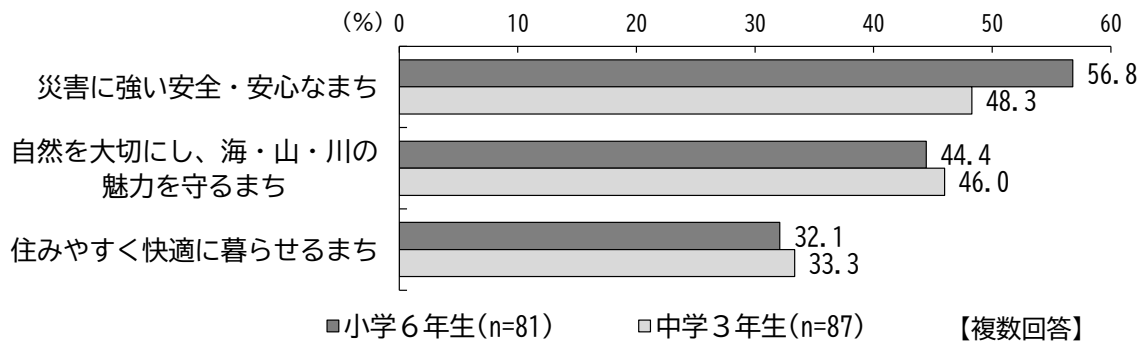
	第1位	第2位	第3位
小学6年生(n=4)	遊べる場所が少ない 75.0	買い物がしにくい 50.0	産業が盛んでない ほか 25.0
中学3年生(n=7)	遊べる場所が少ない 71.4	病院が少ない／買い物がしにくい 42.9	

(2) 今後のまちづくりについて

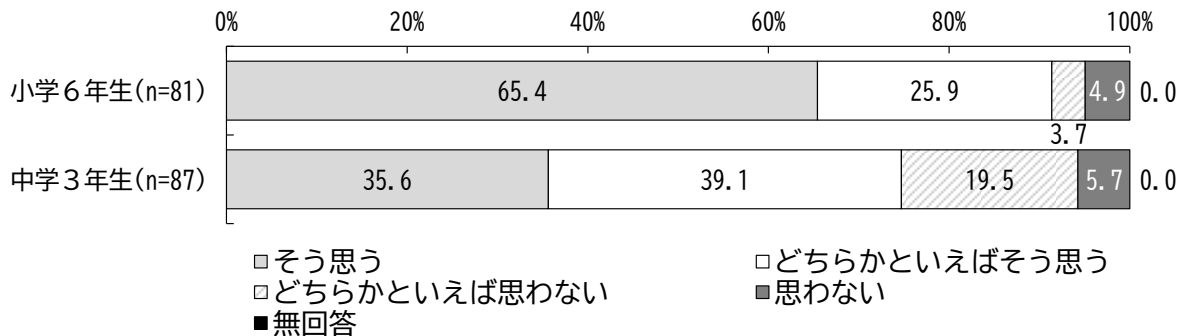
将来のまちの姿については、小学6年生、中学3年生ともに「災害に強い安全・安心なまち」が第1位に挙げられ、次いで「自然を大切にし、海・山・川の魅力を守るまち」、「住みやすく快適に暮らせるまち」が続き、住民アンケート調査と同様に、防災対策への関心が強く、今後も継続して取り組む必要があるといえます。

町を離れたとしても、また町に戻ってきたいかをたずねた結果は、『戻りたい』（「どちらかといえばそう思う」と「そう思う」の合計）が小学6年生で91.3%、中学3年生で74.7%となっており、中学3年生では前回調査の71.0%から約4ポイント増加しており、若い層が町に戻りやすい環境づくりが必要です。

将来のまちの姿について（学年別）



将来、町に戻ってきたいか（学年別）



将来、町に戻ってきたいか（中学3年生／前回調査との比較）

